

経営会議の内容

件 名	第 4 次大和市子ども読書活動推進計画「(愛称) こども読書よむ読むプラン」(案) について
所 管 部	文化スポーツ部
日時・場所	令和3年11月19日(金) 10:00 ～ 10:50 研修室
出 席 者	市長、副市長、教育長、病院長、市長室長、政策部長、総務部長、市民経済部長、環境施設農政部長、健康福祉部長、こども部長、文化スポーツ部長、街づくり施設部長、病院事務局長、消防長、教育部長、議会事務局長、図書・学び交流課長
提 出 理 由	第4次大和市子ども読書活動推進計画の策定にあたり、その内容について了承を得るため
会議経過	【主な意見等】 ・こども部としても、この計画に基づき、ブックスタート等により子どもの読書のきっかけ作りの取り組みに協力していきたい。 ・中高生に向けて電子書籍を活用した取り組みを進めるとのことだが、現状、本市の図書館において電子書籍はどの程度整備されているのか。また、他自治体の状況はどうか。 (所管部) シリウスにおいては電子図書館を運用しており、565タイトルを扱っている。県内では8自治体で電子図書館を運営しているところ、綾瀬市は交通の便が良くないこと等の理由から特に多く導入し、約16,000タイトルをそろえているとのことである。 電子書籍を活用した取り組みについては、最初は中高生等の若い世代を対象とし、その後、各世代に拡大していきたい。 ・子どもの読書を推進するためには、読書につながっていくような環境も重要と考える。計画に基づきながら、家庭において読書のきっかけが得られない子どもに対し、学校と協力して読書につながる環境を整えていってほしい。 (所管部) 読書の推進については市として進めている重要な施策のひとつであるところ、市の魅力作りにもつながるよう、教育部、こども部はもちろん、他の部署とも連携し、全庁的に取り組んでいきたい。 ・第3次計画期間における取り組みとして、ブックスタート事業において毎年2,000組の親子に絵本を配布したこと、ボランティア入門講座等を実施し、延べ666人が参加したこと等を挙げているが、その成果はどのようなものか。 (所管部) ブックスタートにおいては、本を配布しているのみではなく、読み聞かせの方法等についても伝えている。また、ボランティア入門講座を受講した方が実際に読書推進のための活動を行っている。このように読書の推進に関わる人が増えたことがひとつの成果と考えている。 ・現在、図書館から学校に本を貸し出しているとのことだが、保育園や児童館などにも貸し出す等、本を様々な団体に提供する取り組みについて検討する予定はあるか。 (所管部) 現状の制度でも保育園等に貸し出すことはできるところ、その制度を充実させる新たな仕組み等について検討している。また、商業施設等、貸し出す団体の対象の拡大については今後の課題と捉えている。

	・ 中高生は情報収集を目的としてスマートフォンを利用することが多いと思うが、電子書籍の利用が増えるよう、取り組んでいってほしい。 （所管部）図書館等での読書も重要と考えており、電子書籍にのみ偏ることなく読書活動の推進に取り組んでいきたい。 ・ 読書活動の推進については、本が傍にある環境と本へ導く方策の2つの側面から計画的に取り組む必要があると考える。また、読書の重要性に対する親の認識の違いによる家庭の差に対しては本を読みたいと思うような刺激を家庭以外で与えられる仕組みを作る、中高生の不読に対しては、市の読書クラブ等を設置し、学校単位以外での取り組みを新たに始める等、課題に対してはひとつずつ対処していかなければならないと認識している。学校側としても引き続き、積極的に読書活動の推進に取り組んでいきたい。 ・ 第4次計画において、初めて中高生に的を絞った取り組みを設定したと思う。読書の「効果」という表現では敬遠されてしまうかもしれないが、読書は、表現力の向上等により自身を輝かせることができることを、様々な機会を捉えて若い世代に伝えてほしい。 ・ 乳幼児期における絵本との出会いが読書の最初のきっかけになることが多いと考える。市から貸し出す等、各家庭の絵本を充実させる方策についても検討してほしいのではないかと思う。 ・ 第4次計画については、デジタル化を踏まえた要素を取り込んでいることが、これまでの計画と大きく異なる点である。その代表的な部分が電子書籍についての記述である。学校教育でもGIGAスクール構想に基づくデジタル機器が取り入れられるなど、デジタル化の波が来ているタイミングで開始する計画であることを意識して、各取り組みを進めてほしい。上の世代になるほど紙の本を良しとする意識が強いのではないかとと思うところ、紙と電子媒体を切り分けて活用することも重要である。この計画が本市の読書活動推進の分岐点になると捉え、これまで以上に力を注いで取り組んでほしい。
会議結果	案のとおり、進めていく。